



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

9月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

mrntUSA711@gmail.com

2016年(平成28年) 9月1日(木)

NO. 181

朝の講話

「朝の集いの目指すもの」
七月十七日(日) 朝の集いの時間に、倫理オフィスにおいて本部国際事業部伏木久登部長による講話を頂きました。

最初に倫理研究所本部の来年度の方針について国内に向けては日本創生、海外に向けては地球倫理の推進、来年度は「さらなる新に挑む」を旨指していく基本方針であると話された。

私達は倫理を学ぶことによって自分自身がどのように役立っているかを考えることが必要なのではないかと、皆さんはどのような思いで参加されているのでしょうかと問い掛けられた。

一 朝の集いは何のために。
目的意識をしっかりと持つば、より望ましい手段がきつと見つかる。目的あつての手段だということ、忘れないようにしたい。

二 倫理研究所歌「世紀の歩調」の歌詞にヒント・目的が隠されている。

全人類が真に生きがいある生活を営む。

大自然はもともと、あらゆる恵みを用意して人類の幸福

に備えつつある。

明るく喜んで仲良くやってゆこうと意識して朝の集いに参加する事が大切だ。

三 純粋倫理を身につける
☆「万人幸福の栞」の読み方
読みながらハツと気づいたり、そうだな、と思ったり、深く反省させられたり感動したりする心の動きを大切にします。私たちの心の奥底にある「たましい」が文字や文章に触発されて動き出すのです。

☆稽古
丸山敏雄先生の教えをそのまま繰り返し行う。

☆修行
純粋倫理の学び「朝の集い」も修行の場の一つ。
☆自分自身を、意識した実践により改善。

明るくなれない人←明るい挨拶などで明るく振舞う
億劫な人←喜んで働く・率先垂範

孤独感の強い人←人と仲良くする。お世話側になる
☆捨我が大切
自己中心の我欲が強いと稽古や修行は進まない。捨我の精神を持つ

☆真の自由を得る
稽古や修行の目指すところ

は型にはまることなく、心の欲するところに従つてのりをこえない自己となる

四 さらなる人生の高みを目指す。マンネリを破る。
☆マンネリ(習慣)

習慣とは新しい未知の刺激を避けようとする自然状態
☆直感「気づき」は高次の心の状態として、習慣(マンネリ)を打ち破る力がある
目的を明確にし、己の直感を大切に、新たな実践を繰り返すことで真に生きがいある人生を創造しよう!と話された。そして朝の集いでの「誓いの言葉」を日々の生活で意識しながら行動していきましよう」と力説され講話を結ばれた。意識を持つことで毎日の生活の中で何かが変わってゆく事の素晴らしさをお教え頂きました。有難うございました。(梅本和子記)

活動方針説明

七月十七日(日) 朝の集いの後、伏木部長から二〇一七年度生涯局活動方針書の説明がありました。

南カリフォルニア倫理の会は家庭倫理の会に準じます。原点の目的があつて活動があります。

会員の皆さんが朝の集いに来るのは「温かさ」を求めてだと思えます。そのためには前もつての準備や受け入れる心がないといけません。皆さんはこれに惹かれて来られるのですから。

対立とは労使、南北と色々ありますが、自分が「尽くし抜く」ことがポイントです。自分が出した分は必ず戻ります。

継承はとても大切です。倫理を次の世代につないでいく組織作りをしっかりとすることです。

全一統体 — 目の前の現象にとらわれず目に見えないところを意識することです。

個人の幸せ — 会は人づくりをしています。お役を受けたいと人は向上しません。お役を持つてこそ倫理を実践することができます。

中心帰 — 直屬上司につながり、中心の会長に繋がっていく。

計画的にやらないと結果はできません。活動方針書をベースに、米国の方針を決めましょう。

熊本地震災義援金
倫理オフィスで集めた合計が七一〇ドルになりました。県人会協議会にお渡ししました。皆さん、ご協力、ありがとうございました。

文化セミナー

七月二十九日(金)午後七時
九時、甲斐靖幸先生を迎えて
倫理オフィスで行われた。

甲斐先生は倫理との絆を話さ
れた。倫理の会とのなれそめは
浪人中に母親の『葉』で十七か
条を知った。どこに行くにも常
にそれを持ち歩き読んだ。その
うち実践をしていないことに気
付き、まずは両親に喜んでもら
いたいという気持ちで湧いてき
た。五時に起き片付けをし、思
いついたらすぐに実行を心がけ
た。そうしているとどんどん心
が明るくなってきた。ある日予
備校の帰りの電車の窓に写る自
分につこりしている自分に驚
いた。四十七歳の時に転機が訪
れた。倫理の会の方の熱心なお
誘いをとうとう受け入れる事を
決意した。父親には泣かれ、し
かもン百万の減収であったが、
転職をした。

「書」に関してのお話です。
書の心構えは日に最低一度は
筆を持つこと。頻度が大切。機
会あるごとに字を見ること。
人の書を褒め、己の書を愛せ、

書は心画なり。字を鍛えて自分
の心を磨く。

「書」の実践講座がありました
た。旅行先にミニ習字セットと
筆を持ち歩くのだと可愛いセッ
トを出され、コップに水だけを
入れて筆に水を馴染ませ半紙に
書かれました。こうすると筆に
馴染み正しい筆法の練習にな
る。さらに水なので、乾けば半
紙は何度でも使えるということ
でした。これは確かに丸山先生
が(芸術論編二六頁)で書の神
棚のことを書かれており、「筆
や紙をぞんざいに扱うものは能
筆家にはなれず、ゆかしく味の
ある書は生まれぬ。」まさに
そのように真摯に研鑽される甲
斐先生の姿勢に静かな感動が広
がりました。

次に「短歌」のお話になり短
歌上達の秘訣はよく詠む事。名
歌を読む。付きて離れぬこと。
継続が大切だということとし
た。
五感を研ぎ澄ます。じっと見
る。聞く。味わう云々。どこに
感動したか本質を考える。短歌
を詠むことは愛を深める事。短
歌は日記以上である。後からあ

りありと深くその時の感動が甦
る。

ひとつのエピソードを披露さ
れました。一九九七年筑波で
「宇宙機関長会議」が開かれた
際、NASAの長官が日本語で今
の心境はまさに「漕ぎ抜けて霞
の外の海広し」という句で表現
できるでしょう。と言われまし
た。驚いた関係者はこれは正岡
子規の俳句だときとめ七七を
足して短歌にして返したいと奮
闘が始まりました。そして、
漕ぎ抜けて霞の外の海広し
藍とうとうと流れ合いたり
と結ばれ会場には感嘆の声が沸
き起こったそうです。何とも粹
ですね。

しきなみ短歌会

三十日(土)午後一時半〜三
時半、オフィスで開きました。
甲斐先生の短歌を交えて皆で
(評)を行いました。

短歌には、苦しいとき、辛い
時には癒しの効果があり、
ZEMOの「介護短歌」も好評だ
そうです。面白い川柳のうちひ
とつです。
立ち上がり目的忘れて又座る

先生もご自作の作意を話され、
その初々しさに皆盛り上がりま
した。

先生の評は批評でなく評価で
あり、分かなければ其の都度
インターネットで調べてその人
の気持ちをはかるうと一生懸命
努力されていきました。それは暖
かく柔らかな陽射しのようまし
た。

先生のこの会のご感想は、「闊
達な意見が飛び交い切磋琢磨し
て、刺激しあい、聞いていて気持
ちが良かった。」他の会では講師
が感想を言われるだけで大変静
かだそうです。今回、アメリカの
この会に来られて、普段詠む人
たちの顔を見たい、人柄を知り
たいと本気で思っておられた気
持ちはよく伝わりました。

倫理の会も甲斐先生という清
廉で真摯なお人柄を得てその意
のとおりに私共にも清涼な風を吹
き込んでいただきました。残さ
れた静かにひたむきに研鑽を重
ねる姿勢は日ごとにしんと
沁み渡って行っています。

最後になりますが、丸山敏雄
先生のお歌が思い出されまし
た。
(次ページへ)

個に居りて個にとどまらず天地にみちみなぎれる我が命はや

(5555)

創始者の求道の精神の風に少しでも触れる事が出来た実りの多い二日間でした。

(武田ゆき記)

秋津書道勉強会

七月三十日(土) 午前十時より十二時まで甲斐靖幸先生の下倫理オフィスで行いました。

第一印象は「お手本よりもつとうまく書くぞつ。」という気構えを持つてくださいという言葉です。

草野さんの進行で始まり、遅くこられた生徒も含めて十七人全員はそれぞれの人なりに書道全般のことをいろいろと学び、吸収した様子でした。秋津書道五年生になっている私にとって「お習字は上手にかくためではない」大事な側面を具体的に勉強できました。

例えば前回使った筆を洗って乾いたものを再び使うときの手順をそばで見ているととても感心しました。穂先から根元まで右手で軽くやわらかくさするよう

にほぐしているのを拝見して、その身のこなし方、心の落ち着きを垣間見ることが出来ました。続いて墨をつけるときも、ゆつくりとやわらかくとつぷりと筆の根元まで墨を浸して、さらに含みすぎている墨汁を容器の内面につけて余分な墨をゆつくりと落としてから半紙に書き始めました。

たまたまグレースさんの書を添削しはじめた際、誰かが質問をしたのでその答えを何秒間かしているとき墨を含んでいた甲斐先生の筆は半紙の真上数センチにあつたにもかかわらず、作品を汚しませんでした。よくポタツと墨が落ちてしまうことがあるのに、墨のつけ方の経験技術があると思いました。

またある人の書を指導しているとき、私の目から見れば直す部分がたくさんあると思つた作品に、甲斐先生はよく書けている部分をたくさん探し出して二重丸や優をずいぶんとつけていて、最後の何秒間になって訂正したらいいと思つていた箇所いき、「この作りはこう書くともっと安定しますネ」とやわらか

く軽やかな教え方には敬服しました。

丸山敏雄先生がその書物で書いているように「書く人の心がその書に表れる」だけでなく、訂正の仕方や教え方にまで入っているとと思いました。

秋津書道では楷書のテキストを一通り終わったら、行書、草書と進んでください。そして一般部から高等部へとどんどん進んでくださいという激励もされました。滝川先生とは少し違つた目線があり、それもいい勉強になりました。やわらかい教え方でご指導くださりありがとうございました。

(大竹信雄記)



講話

七月三十一日(日) 朝の集いで、甲斐靖幸先生に『葉』十七条の講話をして頂きました。

顕界は物事はバラバラに見える。しかし幽界の見えない処で一つに統べられている。

これは全一統体の原理である。

宮沢賢治の言葉に「世界全体が幸福にならないうちは、個人の幸福は有り得ない」というのがある。他の国が不幸で自国だけ幸福はありえない。

人間は地球を良くも悪くも出来る力が与えられているが、動物に対して顕界の主となっているだろうか。神が劇作家、監督、演出をして下さるのだ、人は俳優として自由に演じることが出来る。倫理の会員は演じ方がわかつてるので幸せだ。あとは実践するだけである。

「死は生なり」を一七条とセツトで読むと理解しやすいでしょう。「良かったね」と言われるような人生を歩みましょう。

優しく温かく諭すようにお話しされ、毎日を大切に生きたいと思えました。(ホン史子記)

おめでとうございます

『しきなみ』八月号

真砂集(西東京・海外)

入選 摺木洋子

清泉集(中東京・海外)

三席 武田ゆき

わずかなる窓のすき間に光さすそこから生れし新たなる我

入選 飯田隆

『秋津書道』八月号 競書

入選 滝川政和 芸術部(碧の部)

入選 長谷川公子 高等部(東京)

七席 立川宏子 一般部(東京) 草書

一席 前田グレース 一般部(東京) 行書

五席 香山幸子 一般部(東京) 楷書

六席 小倉治望 一般部(東京) 楷書

入選 大竹信雄 一般部(東京) 楷書

調和体 滝川政和 芸術部(碧の部)

世主 奥廣博

南カリフォルニア 前田グレース

1席 前田グレース

学習の手引きをよく見てしっかりと書かれた。

秋冬空 無窮時

南カリフォルニア 香山幸子

5席 香山 幸子

秋冬空 無窮時

南カリフォルニア 小倉治望

6席 小倉 治望

BBQ

七月三十一日、コロムビア公園で甲斐先生と共に、倫理の会全員の懇親BBQを致しました。爽やかな空の下、楽しい日を過ごしました。お手伝いの皆さま、ありがとうございました。

しきなみ短歌

毎朝の散歩で今日はどうんな人の笑顔に会えるか
楽しみの日 与那覇寛雄

雨あがりいっせいに芽吹く並木達朝日に映えて足どり軽く
森田のりえ

「母さんはワシがわからなくなつた」との義弟よりの短いメール
草野律子

手術後は運転するもままならず全てのことを娘に助けらる 摺木洋子

喜びと不安の混じる娘の顔が桜に染まり今日入学す 松元依子

一日中「雨」との予報はずれたりロスにまれなる春疾風(はるはやて) 吹く 滝川歌子

亡き夫の造りし庭は年経るも白梅咲きて春色となる 杉野和子

「いただきます」「ごちそうさま」の日本語は孫子の心に生き続けおり 長谷川公子

春眠をむさぼる子らを一喝す寝床に落ちた愛の雷 伊澤潤子

息子から一緒に飲もうと誘われて延々五時間語り合いたり 飯田隆

我が胸に飛び込み孫は「遊ぼうようシャボン玉で」と耳元で言う 梅本豊造

曾孫より手渡されたる花束をぐつと抱き締め笑みかえす姑 梅本和子

気負いても歳の流れに逆らえぬ丹波の黒豆とると煮る 門園美枝子

裏庭にテントを張りて今何時と離れ住む孫を待ち受ける夫 ホン史子

親子して作るダルマに飛ぶ歓声雪の林に吸い込まれゆく 松永典子

アメリカで育つた文化は何百年地形が語る何億年史 尾崎よしみ

この舟に信じて乗ろう出会うまで過去の自分をつつむ未来と 武田ゆき

目を合わすことが苦手な吾の真似をしては喜ぶ貴女なのかな 甲斐靖幸